



自然科学書協会 会報

NSPA JAPAN

THE NATURAL SCIENCE PUBLISHERS' ASSOCIATION OF JAPAN



2025 年 7 月 30 日 No.3
(通算 112 号)

目 次

1. 理事長就任のご挨拶（理事長 池田 和博：丸善出版） 2
2. 第 75 期定時総会・第 75 期第 1 回会員報告会 報告（総務委員会） 3
3. 第 74 期委員会事業報告 5
4. 自然科学の時間：地球惑星科学のはじまり―「人新世」時代の科学革命論を求めて― 10
(山田 俊弘：大正大学 総合仏教研究所 研究員)
5. 会員社訪問 社長インタビュー（技報堂出版 社長 長 滋彦） 15
6. 第 74 期「自然科学書フェア 2025」視察報告（販売・出展委員会） 19
7. 出版クラブビル 3 階ライブラリー「自然科学書協会展」のご案内（広報委員会） .. 22
8. 事務局だより 23
9. 編集後記 24



発行人：池田 和博 / 編集：広報委員会

一般社団法人 自然科学書協会

<https://www.nspa.or.jp/>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-101 神保町 101 ビル 3 階

TEL：03-5577-6301



◆ 1. 理事長就任のご挨拶 ◆

理事長 池田 和博

7 月 16 日 (水) に開催された定時総会・臨時理事会において理事長に再任され、理事長として 2 期目を務めることになりました。1 期目の 2 年間にどれだけ会員社の皆様のお役に立てたかわかりませんが、副理事長をはじめ理事の方々、会員社各位のご協力を仰ぎながら精一杯努めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。また、日頃よりご支援をいただいております業界団体、関連団体各位におかれましても、引き続きご指導とご協力をお願い申し上げます。



2 年前に理事長を拝命してから、当協会は各委員会を中心にいろいろな活動をしてまいりました。今年は広報委員会の新たな試みとして、6 月 27 日 (金) から 7 月 18 日 (金) まで出版クラブビルの 3 階ライブラリー展示スペースで「自然科学書協会展」として当協会会員社の書籍展示が行われ、9 月 1 日 (月) から 2 度目の展示がなされます。販売・出展委員会では自然科学書の普及のために自然科学書フェアを書店と協力して例年続けています。かつては読者を対象として講演会やサイエンスカフェを展開していましたが、研修委員会の現在の活動として会員社である出版社にとって役立ちそうなテーマにも目を向けて研修会を開催しています。授業目的公衆送信に関する動きに加えて図書館送信も運用が開始され、著作・出版権委員会では関連団体の会議に出席して情報共有に努めるとともに、去年は著作権法に則った教科書利用を促すための文書を大学・短期大学学長宛に送付しました。さらに法経書出版協会が主導して作成した「STOP! 書籍の不正利用」の制作・配信に協賛しました。総務委員会では通常の業務に加えて事務局員の交替業務がありました。前任の高山さんと新任の柳橋さんのお力もあって無事に引き継ぐことができました。

今期も、販売・出展、著作・出版権、研修、広報、総務の各委員会を中心に、自然科学書や著作権などに関する普及・啓蒙とともに、会員社にとって有益となるような内容や運営について議論しながら、基本的にこれまでと同様の活動を展開していく予定です。

また、当協会は来年に創立 80 周年を迎えます。昨年 80 周年記念事業特別委員会が設けられ、これから本格的に準備を進めていくことになります。この節目にこれまでの活動を振り返り、理学・工学・農学・医学・家政学 5 分野における出版社が集う協会として、会員社が発行する出版物を通して科学・技術の発展に貢献できるよう努めてまいります。

出版不況が続くなかで課題はたくさんありますが、当協会の会員社が発行する出版物が自然科学分野に不可欠な知識と情報を提供するものであることは間違いなく、各出版社はそこに誇りと責任をもって出版活動に取り組まれていると思います。そうした会員社のお力をお借りしながら、当協会が各社の後ろ盾となれるよう、専門書に特有な様々な課題に取り組んでまいります。会員社をはじめ関係各位におかれては、どうか引き続き当協会へのご理解とご支援を賜われますよう重ねてお願い申し上げます。

◆ 2. 第 75 期定時総会・第 75 期第 1 回会員報告会 報告 ◆

＜定時総会・臨時理事会＞

7 月 16 日（水）16:30～、出版クラブホール 4 階会議室にて一般社団法人自然科学書協会の第 75 期定時総会が開催されました。

司会・進行の森田総務副委員長より総会成立の報告があった後、定款第 28 条に基づき池田理事長が議長の任にあたりました。また議事録署名人として、定款第 32 条に則り森田理事、白石理事の 2 名が選任され、下記の議案審議に進みました。

第 1 号議案「第 74 期事業報告書案承認の件」については、梅澤副理事長より説明があり、「自然科学書フェア 2025」の開催（開催店：大垣書店イオンモール KYOTO 店）、授業目的教科書利用に関する著作権啓発の取り組み、各種研修会の開催、広報活動などの概要報告がありました。

第 2 号議案「第 74 期事業年度収支決算書案承認の件」については、白石総務委員長より前期差増減の大きな費目を中心に説明があり、貸借対照表として当期はマイナス決算となったが、前期との比較ではマイナス幅が圧縮された旨の報告がありました。会場からは、収益性が厳しくなっている自然科学書フェアのあり方について見直しを求める意見などがありました。

監事を代表して長監事より事業報告および計算書類などの監査結果として、いずれも特段の指摘事項などはなく適正であるとの報告がありました。

そして、第 1 号議案・第 2 号議案について議長が決議を諮ったところ賛成多数で可決承認されました。

第 3 号議案「役員任期満了に伴う新役員選任の件」については、池田理事長より、投票によって選考された理事候補者 8 名に加え選考委員会推薦による理事候補者 7 名、および監事候補者 3 名の提案がありました。これについて会場から、ほかの理事候補を推す意見がありましたが、議長が決議を諮ったところ賛成多数で提案どおり可決承認されました。

その後、「第 75 期事業計画及び収支予算の件」について報告があり、司会の閉会宣言により第 74 期定時総会は終了しました。

そして、別室にて新役員による臨時理事会が開催、理事長・副理事長（2 名）が選任され（い



森田総務副委員長



定時総会の風景

れも重任)、これについて出席会員社への報告がありました。

○ 第 75 期・76 期 役員一覧 (https://www.nspa.or.jp/aboutus/board_member/)

<会員報告会>

定時総会終了後の会員報告会では、各委員会から直近の活動内容や取り組むべき課題を中心に概要報告がありました。詳細は本号の別掲をご覧ください。

<懇親会>

同じ出版クラブホールの 3 階に場を移し、引き続き会員懇親会が開催されました。

池田理事長の挨拶では、フリーランス新法について、大手出版社で公正取引委員会から是正勧告のあった事例などにふれ、取引において法定遵守を徹底していきたい旨の話がありました。引き続き乾杯の発声により高らかに乾杯が唱和され、参加者の交流・情報交換が積極的行われました。

会の半ばでは、新たに理事に選任された藤実理事が挨拶に立たれ、協会の歴史の重みを感じるとともに新たな難局を迎えている現状に対し会員各社が協力し合って解決を図っていききたい旨の話がありました。

そして、梅澤副理事長から、業界全体の厳しさを嘆いてばかりいるのではなく、外部環境の変化に対応する取り組みをしていこうとの中締め挨拶があり、懇親会は幕を閉じました。

(総務委員長 白石 泰夫：医歯薬出版)



池田理事長



藤実理事



梅澤副理事長



懇親会の風景

◆ 3. 第 74 期委員会事業報告 ◆

1) 販売・出展委員会

第 73 期・第 74 期の販売・出展委員会の活動として、「自然科学書フェア」を下記のとおり、神奈川県藤沢市と京都府京都市で開催いたしました。

ジュンク堂書店藤沢店は、2008 年 12 月に JR 藤沢駅北口のビックカメラ藤沢店 7・8 階（880 坪）にオープンしました。藤沢駅は小田急線、江ノ島電鉄線のターミナル駅であり、近隣には、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス、日本大学湘南キャンパス、湘南工科大学、多摩大学湘南キャンパス、文教大学湘南キャンパス、湘南鎌倉医療大学、鎌倉女子大学などがあります。

フェアタイトルは前回同様「未来への架け橋 知識の泉 自然科学書フェア」とし、例年同様に、基本 5 ジャンル（理学・工学・農学・医学・家政学）の t、「図鑑・事典」「人工知能」「健康・運動・リハビリテーション」「宇宙・天文」「動物たち」「防災」といった小テーマのミニコーナーも併設し、フェアの活性化を図りました。

販売促進としましては、店内にてポスターの掲示、チラシ・しおりの配布を行いました。

さらに、教育機関・図書館・研究機関・公共施設などへのチラシ配布、ポスター掲示などで周知するほか、地元のタウン誌などで多くの方々にアピールし、大変好評を博しました。

大垣書店イオンモール KYOTO 店は、JR 京都駅から徒歩数分のところに位置するショッピングモール「イオンモール」の東側 Kaede 館 2 階にあり、約 1,000 坪の広さがあり、大阪府や滋賀県からも多数の通勤・通学者が訪れ、また観光客も多数来店されとのこと。同店舗でのフェアの開催は、2015 年に引き続き 2 回目となります。

また、例年同様に、基本の 5 ジャンルのほか、小テーマのミニコーナーを「“京都”発ー京都関係の著者本ー」「AI」「防災と街づくり」「万博とテーマ（いのち）」「量子物理学 100 周年」「プラネタリウムと宇宙科学」「“昭和 100 年”ー昭和から続くロングセラーー」「希少本とマニアックな本」の 8 つのコーナーと、お客さまへの訴求力をより高める意味から、今年は各社「わが社の 2024 年売上ベスト 1」商品を展開しました。

今回はフェアテーマとは別に「好奇心は世界を変える！」「“知りたい”にチャレンジ」の二つのキャッチコピーを掲げ、ポスターやしおり、新聞広告、店舗のショウウィンドウやデジタルサイネージなどに利用しました。

今回、「わが社の 2024 年売上ベスト 1」として出品を募り、会場に特別コーナーを設けて 1 か所に集めるとともに、ショウウィンドウにも全点を展示して、お客さまにアピールするようにしました。

第 75 期も適切な時期にフェアの開催を実現すべく、委員の皆様と力を合わせ委員会活動に尽力してまいりますので、今後とも委員会活動へご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、当委員会活動にご理解・ご協力いただいた会員各社と、多大なるご尽力をいただいた当委員会の皆様にはこの場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

記

○「自然科学書フェア 2024」

- ・期 日：2024 年 5 月 14 日（火）～7 月 31 日（水）
- ・会 場： ジュンク堂書店 藤沢店
- ・テ ー マ：「未来への架け橋 知識の泉 自然科学書フェア」
- ・参加社数：47 社
- ・出 品：1,126 点 2,405 冊
- ・販売実績：483 冊 1,313,364 円（本体価格）

○「自然科学書フェア 2025」

- ・期 日：2025 年 5 月 15 日（木）～7 月 6 日（日）
- ・会 場：大垣書店イオンモール KYOTO 店
- ・テ ー マ：「未来への架け橋 知識の泉 自然科学書フェア」
- ・参加社数：46 社
- ・出品：1,666 点 3,529 冊

以上

（販売・出展委員長 吉野 和浩：裳華房）

2) 著作・出版権委員会

＜第 74 期事業報告＞

前期に引き続き委員長の筑紫、副委員長の小立健太理事のもと、会員各社を代表する 21 名の委員にご協力いただきました。委員各位には業務ご多忙のなかを協会活動にお力添えいただき、この場を借りて深謝申し上げます。

○ 委員会の活動報告

第 74 期には、委員会を 2 回招集しました。第 1 回委員会は 2024 年 10 月に開催し、教育目的複製に関する適正利用を高等教育機関に求める文書案の検討と、今後の対応について検討しました。これを受けて 2024 年 11 月に当協会より「教科書複製利用に関するお願い」の文書を全国 1,118 校の大学・短期大学学長宛に発信しました。

第 2 回委員会は 2025 年 3 月に開催しました。2024 年末に会員社より著作権侵害が疑われる事案の相談があり、その対応について検討しました。獣医系の大学にて製作・販売している国家試験対策本に当協会会員社の書籍から無断で転載している可能性が疑われることから、同書に転載が確認された会員社 11 社へ状況をお知らせしました。本件については、理事会でも継続案件となっておりますので、今後も当委員会を中心に対応に取り組んでまいります。

○ 著作権関連団体への協力活動報告

- ・出版者著作権管理機構（JCOPY）の活動に協力し、当委員会から運営小委員会に 2 名、運営委員会に 1 名の委員が参加しました。主には授業目的公衆送信補償金制度における補償金分配業務に関する内容でした。2021 年度の制度開始から 3 年が経過し、収受した補償金額の内、利用された著作物の権利者が判明しないなどの理由から約半分程度の金額しか権利者へ

の分配ができていない状況にあり、その対応が授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）内で議論されています。現在、2022 年度利用分まで補償金分配の作業が進められていますが、分配に至る作業工程が煩雑であったことから、2023 年度利用分の補償金分配については、分配に至るまでの作業工程の見直しが検討されています。

- ・出版教育著作権協議会（出著協）の活動に協力し、当委員会から運営委員会に 1 名が参加しました。出著協は、SARTRAS の構成団体として、出版社からの意見をその運営に反映するための議論を重ねています。
- ・図書館等公衆送信補償金管理協会（SARLIB）の活動に協力し、当協会からは二つの委員会にそれぞれ 1 名ずつの委員が参加しました。当該制度は 2024 年度から制度自体は施行されており、制度運営に必要な管理システム開発が遅れたことにより運用が見送られていましたが、2025 年 3 月よりサービスが開始されました。

<第 75 期事業計画>

- JCOPY 関連：引き続き当協会からは 3 名の委員が参加することで、その活動に協力してまいります。
- SARTRAS 関連：引き続き出版教育著作権協議会の活動に参加することで協力してまいります。
- SARLIB 関連：引き続き当協会からは 2 名の委員が参加することで、その活動に協力してまいります。
- 著作権に関連した活動：昨年末に全国の大学・短期大学学長宛に啓発文書を発信いたしましたが、目立った反応は得られませんでした。引き続き高等教育機関における採用品教科書の適正な利用を発信できるよう、当委員会で意見を集約して対応を検討してまいります。また、会員社から著作権関連の問合せがあった場合には、随時対応してまいります。

第 75 期も引き続きお力添えいただけますようお願い申し上げます。

（著作・出版権委員長 筑紫 和男：建帛社）

3) 研修委員会

第 74 期、研修委員会は、会員各社の実務能力向上と業界発展への貢献を目指し、研修事業を企画運営いたしました。

まず、2024 年 6 月 7 日（金）には、研修会「<最新>出版社のための補助金・助成金解説&顧客支援課のサービスと事例」を文化産業信用組合本店で開催し、22 名に参加いただきました。同組合の安田和博氏、早坂直行氏を講師に迎え、国や自治体の補助金・助成金の活用法や、同組合顧客支援課のサービスについて詳解いただきました。

続いて、2024 年 7 月 30 日（火）には、（一社）出版梓会との合同研修会として、「出版社経営者必見―失敗から学ぶ円滑な事業継承」を文化産業信用組合本店で開催しました。両会から計 30 名に参加いただきました。（株）青山財産ネットワークスの平野雄太氏をお招きし、コンサルティング経験に基づく事業継承の失敗事例とその対策について講演いただきました。そのなかで、出版事業者における円滑な継承の重要性を深くご提示くださいました。

2024 年 9 月 25 日（水）には、東京都印刷工業組合主催の研修会「実践！出版社、印刷会社に

役立つ ChatGPT&Copilot の使い方」に、(一社) 出版粋会とともに開催告知で協力しました。デジタルハリウッド大学大学院特任教授の橋本大也氏が AI 技術の活用法を解説し、会場と Zoom でおよそ 125 名が聴講しました。

2024 年 11 月 7 日 (木) には、国立国会図書館見学会を実施し、14 名が参加してくださいました。収集・書誌作成・資料保存・修復部門など多様な機構を見学し、膨大な資料の保全・継承に尽力する職員の皆様の活動を間近で拝見させていただき、その重要性を再認識する貴重な機会となりました。

本期事業は、会員各社の皆様からの温かいご協力と積極的なご参加、そして企画運営への貴重なご意見により、滞りなく遂行できました。心より感謝申し上げます。今後も、会員各社の発展に貢献できるよう、時代のニーズに即した研修事業を展開してまいりますので、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(研修委員長 片岡 一成：恒星社厚生閣)

4) 広報委員会

第 73 期・第 74 期は副委員長には曾根良介理事 (化学同人) と委員には原 純子委員 (オーム社)、山田貴史委員 (化学同人)、門間順子委員 (共立出版)、加藤義之委員 (建帛社)、高田由紀子委員 (恒星社厚生閣)、新井明良委員 (コロナ社)、逸見健介委員 (南江堂)、飯岡千恵子委員 (丸善出版)〈会員社名五十音順〉の 8 名にご尽力をいただきました。

第 74 期には委員会を計 4 回 (第 1 回 2024 年 7 月 9 日 (火)、第 2 回 2024 年 10 月 8 日 (火)、第 3 回 2025 年 1 月 9 日 (木)、第 4 回 2025 年 4 月 10 日 (木))、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催しました。

広報委員会の活動内容は主に①「会報」発行事業、②協会ホームページの管理・運営、③協会活動の外部告知、の三つです。

①「会報」発行事業

会報は、2024 年 No.4 (2024 年 10 月 8 日発行)、2025 年 No.1 (2025 年 1 月 9 日発行)、同年 No.2 (4 月 9 日発行) および本稿を掲載している同年 No.3 (7 月 30 日発行) の計 4 回発行しました。今後とも会員各社に対しまして有意義な情報提供をしてまいります。

② 協会ホームページの管理・運営

第 71 期に全面的なリニューアルを行い、見やすくなったとのご評価をいただいております。引き続き最新かつ有益な情報提供をしてまいります。何かお気づきの点やご要望などがございましたら、事務局までご連絡ください。

③ 協会活動の外部告知

自然科学書フェアの開催告知や年末会員懇親会などを「新文化」「文化通信」にそれぞれ掲載しました。

また、出版クラブビルの 3 階ライブラリー展示スペースに当協会会員各社の出版物の展示を計画しました。開催時期は 2025 年 6 月 27 日 (金) ～7 月 18 日 (金)・9 月 1 日 (月) ～19 日 (金) の 2 回開催となります。

第 75 期も引き続き先述の 3 つの柱を中心に活動していく方針です。ホームページから出版業界に対して当協会の存在意義や活動内容を発信することと、業界紙などでの告知を通し、より一層認知度を高めていきたいと考えています。

会員各社の皆様におかれましては、引き続き広報事業にご協力とご理解をよろしくお願い申し上げます。

(広報委員長 牛来 真也：コロナ社)

5) 総務委員会

総務委員会は、庶務・総務・財務を担当し、円滑な協会運営に寄与すべく、事務局と協力しながら活動を行っています。

以下、第 74 期の事業報告について主な項目を記します。

○ 定例理事会・会員報告会・会員懇親会などの運営について

第 74 期の定例理事会・会員報告会・会員懇親会は、会員各位のご協力のもと、例年通りすべてつつがなく開催されました。ただし、昨今の国際情勢に起因する諸物価高騰の影響で少しずつ開催に係るコストが上昇しており、今後はこれまで以上に慎重な会議運営が求められると感じております。

引き続き、スムーズでリーズナブルな運営を主軸に取り組んでまいります。

○ 出版界で行う諸事業について

2024 年 11 月 6 日（水）に、出版平和堂第 56 回出版功労者顕彰会が執り行われ、出版平和堂維持団体として運営に協力しました。

2025 年 5 月 7 日（水）に、第 64 回全出版人大会がホテルニューオータニで開催され、協賛団体としてこれに協力しました。

また、出版メディア協議会・出版梓会・当協会の交流を目的に開催されてきた「出版・印刷人の集い」については、参加社数の推移、講演テーマ選択などを踏まえ第 74 期については開催を一旦休止し今後のあり方を継続検討中です。

○ 事務局業務について

第 74 期については、前事務局員の高山美恵子氏の嘱託契約も終了となり、現事務局員である柳橋和美氏への業務引継を無事完了しました。前期に整えた就業規則・賃金規程、社会保険・雇用保険などに基づく労働環境のなか、業務を順調に進めています。

そのなかで、事務局作業の省力化・経費削減を図り、従来郵送で行っていた諸通知の多くを会員各位のご理解のもと適宜メールへと切り替えました。

○ 債権処理について

会員社退会に伴って債権 1 件が発生しましたが、破産管財人からの連絡（配当額確定通知）、顧問税理士事務所のアドバイスなどを踏まえ貸倒損失処理を実行しました。

以上、今後とも、総務委員会の活動にご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(総務委員長 白石 泰夫：医歯薬出版)

◆ 4. 自然科学の時間 ◆

地球惑星科学のはじまり

—「人新世」時代の科学革命論を求めて—

やまだ としひろ
山田 俊弘

(大正大学 総合仏教研究所 研究員)

1. はじめに——ジャパン・ジオサイエンス・ユニオン JpGU の会場から

毎年 5 月に幕張メッセの国際展示場と会議室を借りて日本地球惑星科学連合 (JpGU) の大会が 1 週間にわたって開催される。海外を含むおよそ 50 もの地球科学系の学会や関係団体から数千人の研究者が集まって繰り広げられる発表やイベントの数々は魅力的だ。大きな災害があったときには特別のシンポジウムが企画される。能登半島を襲った震災はまだ記憶が生々しい。高校生の発表も盛んで、レベルも高い。テレビドラマにもなった伊与原新博士の『宙 (そら) わたる教室』が扱っている定時制高校の研究成果もここでプレゼンが行われた。

ところで、「地球惑星科学」とはどんな科学なのだろうか。英語表記は「ジオサイエンス」なのでほぼ高校の「地学」に相当し、地質学や地震学、測地学、気象学、海洋学、陸水学、火山学、地理学、惑星科学などの諸分野からなる。これらの分野を総動員して地球の構造と歴史が究明される。もちろん、専門分野は閉鎖的なものではなく、例えば火山の研究は、火山学にとどまらず、地質学 (岩石学)、地震学、気象学、地理学などを横断して取り組まれる。こうした分野はすでに 17 世紀のキルヒャーの書にその片鱗を見せていた (図 1)。



図 1 キルヒャー『地下世界』(1665)におけるヴェスヴィオ火山の描写

通常、近代自然科学のはじまりは、16 世紀から 17 世紀にかけての「科学革命」期として、コペルニクスからガリレオやケプラーを経てニュートンに至る時代と理解されている。天動説から地動説に大きく世界観が転換し、自然学に数学が導入されて近代物理学の基礎が築かれた。万有引力が提唱されたニュートンの記念すべき書物の名称『自然哲学の数学的諸原理』(1687) が示すとおりだ。しかし最近の研究では、こうしたメインストーリーだけでなく、もう少しニュアンスのある過程として、そこにジオサイエンスのはじまりも描かれるようになってきている。本稿では地球惑星科学史（ジオの諸科学の歴史）研究の紹介をかねて、この分野のはじまりに思いをはせてみよう。

2. ジオサイエンスの歴史研究——科学の歴史学と科学の地理学

この約 20 年間、地球惑星科学の科学論（科学史・科学哲学・科学技術社会論）のセッションを仲間とともに運営してきた。そこであらためてわかったことだが、ここでの議論の特徴は、すべての問題・テーマについて地域性がついてまわることだろう。科学史研究の主流を占める物理学史や化学史では考えにくいところだ。もっとも 20 世紀の終わりには、科学史（科学の歴史学）の視点だけではなく科学の地理学の視点が必要だという議論も始まっている（リヴィングストン 2014）。小松左京の壮大な SF 小説『虚無回廊』では、太陽系第三惑星上で営まれた科学実践すべてを「地球科学」と称していた。

実際、物理学的手法が重要な意味をもつ地震学の歴史においても、個別の地震や研究のきっかけになった被害地震の話が欠かせない。まして地層や化石の研究の歴史を扱う地質学史や古生物学史ではなおさらだ。一般的な概念化をとまなう科学哲学の分野でも、例えば、地域性をもった個別の岩石と一般化された岩石学の関係を議論しなければならない。歴史科学の哲学などは意外に開拓されていないこともわかった。2025 年 5 月のセッションのある発表では、海洋学における調査のオーラルヒストリーが題材になっていたが（図 2）、ここでも研究者の乗り込む個別の調査船と、航海における調査地域の問題が考慮されなければならなかった。各種調査は深海にも及ぶのだ。



図 2 日本地球惑星科学連合大会における海洋学史の発表

ところで、航海といえばルネサンス期の大航海時代が思い浮かべられる。航海の実際知識自体は近代科学の発展に直接貢献したとは思われていないが、地球儀と地図製作の問題には注意を払っておく必要がある。というのも、三次元から二次元への投影と視点の設定の問題があるからだ。地表面を地球の裏側まで旅行して帰ってきた人は、私たちがものの位置や運動を認識する座標自体がつねに変化することを実感しただろう。住み慣れた特定の場所に固定された視点は、遠く旅する人々にとっては絶え間なく相対化されたはずだ。

「住めば都」は、宇宙観でいえば、地球中心の天動説体系となろう。くわしい議論は『ユリイカ』のコペルニクス特集号に書いたので繰り返さないが(山田 2023.1)、固定された「住めば都」をなくした、認識の脱中心化の経験は、地球を宇宙の中心に固定する考えを揺さぶったに違いない。故郷を飛び出し海洋に乗り出した人々のように、地球を飛び出し惑星空間をさまよう人を想定することはできる。コペルニクスが、プトレマイオスの天文書『アルマゲスト』よりも早く市井に行きわたった地理書『コスモグラフィア』に親しんでいなかったはずがない。そこでは単なる古典の復興にとどまらない、新世界を含む新しい地理情報と地図投影法が披露されていた。

3. 隠されたジオコスモスを明らかにする——プリンチペ『科学革命』が教えるもの

以上のように、地図表現はそれまで気づかれていなかったことを明るみに出し、新たな探究をうながす。従来語られてきた天文学革命が主体の近代科学はじまりの物語に対し、アメリカの科学史家ラリー・プリンチペは、ジオサイエンスの視点を打ち出した語りを提案した(プリンチペ 2014、図 3)。彼は、宇宙を解釈する枠組みとして、1641 年に出版されたキルヒャーの書物が示唆する三領域をふまえて三つの「コスモス」を援用する。月より上の世界(マクロコスモス)、月より下の世界(ジオコスモス)、マイクロコスモスと生き物の世界である。ここにはじめて科学のはじまりの記述にジオサイエンスの歴史が明確な形を与えられた。

プリンチペはジオコスモスの諸分野を、地球、地上の運動、水と空気、火——キミストたちの道具、原子論と機械論、進化するアリストテレス主義の 6 つの節に分けて説明してゆく。アリストテレスの四元素説による土・水・空気・火の各領域をキーワードに、ステノによる地球の歴史、キルヒャーによる地球内部の構造、ギルバートによる地球磁石論、ガリレオによる運動学、トリチェッリやパスカルによる大気圧の理論、ボイルの法則の成立、等々と展開されている。

しかし、やはり圧巻なのはこの時代の錬金術(キミア)とパラケルスス主義の記述だろう。それもそのはず、著者は化学と歴史学の二つの学位をもつ、この分野の最先端を行く研究者だからだ。化学的な調剤から鉱山などに見られる地下や地上の諸現象まで、地球化学的に解釈する道を拓いたパラケルススらのジオコスモス観を組み込むことによって、これまで隠されていた新しい見取り

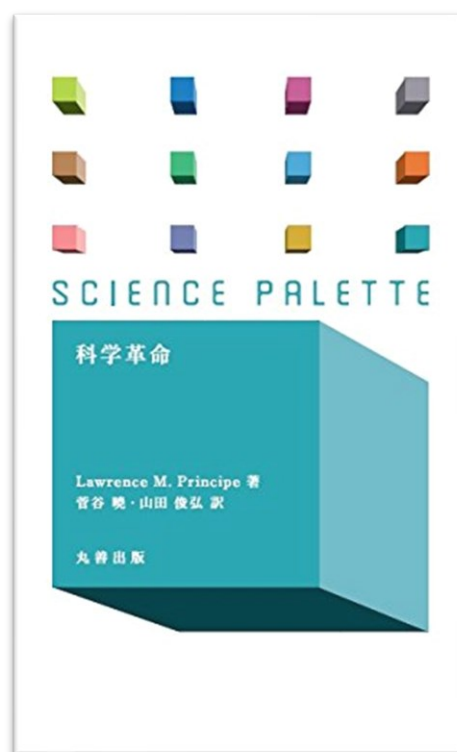


図 3 プリンチペ『科学革命』(原著 2011)

図が描かれることになった。当時の文脈に沿ってアリストテレスの役割も正当に評価されている。

4. ステノにさかのぼって考える——「人新世」と『チ。』の科学史

歴史的背景を無視して、当時の科学研究内容を現代的問題に短絡することは控えなければならないが、今日の重要な課題が地球の気候危機にあることを考えると、ジオコズミックな科学革命の領域があったというプリンチペの記述は大いに関心を引く。また、コペルニクスからニュートンまでの革命期に、地球史を組み立てる原理が確立されていったことも重要だろう。なぜなら大気化学者クルツェンの唱えた「人新世」の議論が関係するからだ。最後にこの「ステノ革命」とも呼ばれることのある達成を振り返っておこう（山田 2023.11）。

デンマーク生まれのニコラウス・ステノ（1638-1686）は、オランダのライデン大学で医学の学位を獲得したが故国には就職先がなく、イタリアに来てトスカナ大公国のメディチ家の宮廷でその才能を花開かせた。有名なのが 1669 年に出版された『固体論への前駆（プロドロムス）』である。ステノの業績は、最後の「図の説明」に明示されるように、のちの地質学や鉱物学の体系では「地層累重の法則」「結晶の面各一定の法則」と呼ばれるものに集約される（図 4、ステノ 2004）。

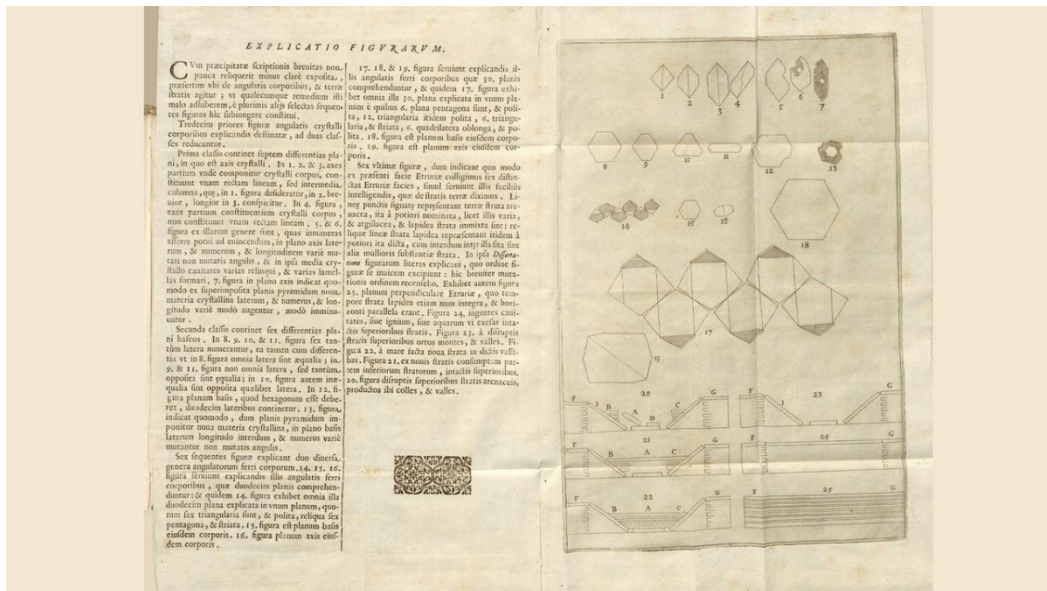


図 4 ステノ『プロドロムス——固体論』（1669）における結晶と地層の「図の説明」

ステノの方法が重要なのは、これによって聖書の物語や世俗の政治史とは独立した自然の歴史を編むことができるようになるからなのだ。もっとも歴史の進み方は単純ではなく、ステノは彼の原理が形を現わすとともに、カトリックのお坊さんになり、聖史と自然史の和解を目指すことになる。一方、ステノの影響を受けたライプニッツは、公国の政治史と自然史を相補的なものととらえ彼の地球論『プロトガイア』を書いた。ライプニッツはハルツ山地の鉱山開発にステノの助言を得ていたようだ。この過程には地質年代の自然史と人間による自然への働きかけの歴史が交錯する「人新世」の問題が読み取れる（Yamada 2024）。

アニメにもなった漫画『チ。——地球の運動について』の作者魚豊氏は、構想にあたってプリンチペ『科学革命』を熟読したという。そのうえであの緊張感に満ちたフィクションが紡がれることになった。「チ」は地球の地、血液の血、智慧の智を表すとのこと。三重の「チ」のいわばメ

タヒストリーがあるわけである。地動説をめぐる物語は、しかし今日、むしろ地球史をめぐる物語として、新たな強度をもって物語られる必要が生じている。私たちの生存がかかっているからだ。

○ 参考文献 ○

- 1) ステノ『プロドロムス——固体論』山田俊弘訳・解説、東海大学出版会、2004 年
- 2) プリンチペ『科学革命』菅谷暁・山田俊弘訳、丸善出版、2014 年
- 3) リヴィングストン『科学の地理学：場所が問題になるとき』梶雅範・山田俊弘訳、法政大学出版局、2014 年
- 4) 山田俊弘「トリアーデのコスモスを編みなおす——コペルニクス革命からステノ革命まで」『ユリイカ』55 巻 1 号、2023 年 1 月、77-88 頁
- 5) 山田俊弘「デカルトの‘テクトニクス’、キルヒャーの‘ジオシステム’——科学革命期の地球惑星認識」『生環境構築史 Habitat Building History』7 号、2023 年 11 月 (https://hbh.center/07-issue_02/)
- 6) Yamada Toshihiro, “The Historiography of the Earth and ‘Anthropocene’: Regional Geo-history and Possible Worlds in the Steno-Leibniz Process,” read at the session of T38-S1: Anthropocene, History and the Geosciences: contributions to contemporary debates, 37IGC Busan, 29 August 2024.



釜山の万国地質学会議
(37IGC, 2024) において

○ 執筆者略歴 ○

- 1955 年 11 月 千葉県生まれ
- 1980 年 3 月 京都大学理学部卒業、卒業後高校地学教諭
- 2004 年 3 月 東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了（博士（学術））、博士論文「17 世紀
西欧地球論の発生と展開——ニコラウス・ステノの業績を中心として」
- 2020 年 8 月～2024 年 8 月
INHIGEO（国際地質科学史委員会）副会長（アジア地区）
- 2025 年 4 月～ 東京大学教養学部非常勤講師、大正大学総合仏教研究所研究員

◆ 5. 会員社訪問 社長インタビュー (No.17) ◆

●社長紹介●

おさ しげひこ
長 滋彦

(当協会理事：2009 (平成 21) ～2019 (令和元) 年)

(当協会監事：2019 (令和元) ～2025 (令和 7) 年)

●訪問社情報●

【社名】技報堂出版株式会社 (GIHODO SHUPPAN Co., Ltd.)

【創立】1936 年 (昭和 11 年) 創業、1976 年 (昭和 51 年) 設立

【HP】<https://gihodobooks.sslserve.jp/>

【主な出版分野】工学・理学

【詳細な出版分野】土木・建築・環境・化学・数学・機械・酒関連



■ テーマ 1 「本について」

— 会社の転機となった本は何でしょうか？

『土木工学ハンドブック』や『土木用語大辞典』などは数百名の著者の方とのやりとりを経て作成されたタイトルです。用字用語の統一はもとより、集稿、校正、難儀に難儀を重ねて生み出されました。個から一つの集団へと組織が変わったと聞いています。

ほかには「はなしシリーズ」が挙げられます。それまでゴリゴリの専門書だけ発売していたのに、高校生や中学生にも読み進められる科学や技術入門書として「土のはなし」を 1977 年に発売しました。以降 130 タイトルほど発売しておりますが、なかでも 1983 年に発売した「酒づくりのはなし」は従来の弊社では考えられないジャンルの本であり、多くの方から賛否両論いただき、社内でも企画立案における分水嶺となった 1 冊になったようです。

— 本が売れない時代、今後の本への可能性は？

紙や電子どのような形であれその存在が消えることは恐らくないでしょう。いまネット上で有象無象の情報が無料で閲覧でき、利用できる状況下にあります。確かに脅威ではあります。それでも我々の本が求められているのは、会社の看板を出して内容の対価に金銭を頂戴していることの責任感および説得力、正確性があるからでしょう。これはネット上の情報の比ではありません。確かに本が売れないと言われてますが、まだまだ捨てたモノではありません。Note など課金型の原稿も多く流通するようになっていますが、なかにはこれでお金を取るのかと驚愕するようなクオリティのものも多々あります。そうした原稿を手直しし、書籍化することも始まっています。言い換えれば様々なアプローチでの書籍化が望める時代になっているとも言えます。マスゴミと言われて久しいですが、我々は智の塊の集団でもあります。柔軟な対応力でその可能性を広めることができていると思っています。

— 社長にとって本とはどういう存在でしょうか？

またお薦めの本や愛読書などがありましたら教えてください。

私自身の生活の糧であることはもとより、知識のすべてを授けてくれたもの、今後もなくはないものです。父親が無類の本好きであり、週に 2 回くらい風呂敷に本を包んで、帰宅するような人間でした。子供の頃は本であればお願いすると買ってもらえることが多く、必然的に本を読むことが好きになりました。日中は近くの原っぱで野球ばかりしてましたが、雨天や夜間は買い与えてもらった児童書はもとより、父親の書棚や納戸や物置に潜り込み、所蔵本をひっくり返して乱読していました。文学や哲学はもとより、美術書、写真集、メディア論、週刊誌、古典芸能、鉄道、アルコール関連、山岳関連、田河水泡さんや手塚治虫さんの漫画といった本にお世話になりました。自分の浅くてもいいので広いジャンルの知識を得ること、何でも興味を持つきっかけになったことに間違いはありません。

愛読書と言うほどのものではありませんが、これまでに感銘を受けた本を神 7 ならぬ紙 7 として古い順にご紹介します。

学習まんが・少年少女日本の歴史 小学館
 こちら葛飾区亀有公園前派出所 集英社
 広辞苑 岩波書店
 深夜特急 新潮社
 地中海 藤原書店
 大図解九龍城 岩波書店
 新約聖書 各社

■ テーマ 2「技報堂出版株式会社について」

出版業としての当社のスタートは 1936 年に遡ります。当初は発明広報協会の名称で特許庁関係の出版物の刊行を主業務としていました。1946 年に社名を技報堂と改め、その出版部門として土木工学・建築・機械・化学といった理工学の専門書出版に力を注いできました。学究肌の読者に愛され「ハンドブックの技報堂」の名を業界に確立したのもその頃です。1976 年には技報堂から分離独立し、技報堂出版株式会社の現称となりました。独立後は従前の路線を継承するとともに、環境化学や食品・栄養といった部門にも進出し、自然科学全般の分野を出版するようになり、2008 年には資本関係も解消し完全独立しました。今後も社名にあるように、技術大国日本の「技」術を「報」じる版元として、微力ながら日本文化と科学技術の発展に貢献すべく努力を続けてまいります。

— 会社の雰囲気をごどのように感じていますか？

よく言えば質実剛健だと思います。取り扱うジャンルの大半が土木や建築といったこともあるのでしょう。とにかく真面目で笑い声よりもエアコンの動作音やキータッチの音が聞こえるような厳かさがあります。

— 現在の社員やこれから入社してくる若い人へ期待や希望はありますか？

会社の看板を使ってやれることは何でもトライしてほしいと思います。編集においても営業面においても企画立案から実行までの道のりは険しいですが、そのプロセスは何事にも代えがたい経験になります。会社の得意なジャンルにこだわりすぎる必要はありません。あらゆる企画を生み出し、それを商品化する体験をしてほしいと願っています。

— 社長が考えるこの会社の一番の財産は何ですか？

これは会員各社どちらでも同じだと思いますが、従業員はもとよりその家族、退職された OB、読者、著者、印刷やデザイン、装丁、倉庫業務など協力会社の方々といった人財が最初に挙げられます。そしてそれらの皆さんによってこれまで作られたコンテンツと企画、90 年弱続く技報堂という名の看板になります。

■ テーマ 3 「過去・未来について」

— 社長になる前にはどのような経験をされてきたのでしょうか？

大学卒業後、コンピュータ関連書を発行する版元へ就職し、Macintosh の専門雑誌の編集部入り記者として活動しました。2 年ほどで別の版元へ転職し、Macintosh の専門雑誌編集に 3 年、休刊後は制作部に異動し月刊 3 誌を担当し、昼夜逆転の生活を 5 年ほど行いました。編集部時代はインタビュー記事を担当していたため、いまは亡きスティーブ・ジョブズ氏や坂本龍一氏とやりとりができたことが貴重な体験となっています。32 歳の時に父から「30 過ぎてそんな生活はどうなんだ、興味があれば専門書の出版社も経験してみたらどうだ？」とはじめて優しい言葉をかけられたことに感動し、最後の転職を決意しました。退職届を提出したことを報告すると「俺はそんなことを言った覚えはない」と翻意され、自分を見つめ直す旅に出るハメになったのはここだけの秘密にしておきましょう。入社まで余計な 3 か月でしたが、入社後は総務畑で 3 年近く従事し、35 歳の時に社長に就任し、従業員はもとより多くの業界の諸先輩方の薫陶をいただきながら現在に至ります。

— 2025 年以降は世界そして日本にとっても大きな変化が起きていますが、今後本はどうなっていくと思いますか？

世界での争乱や政情不安定によって、日本国内も物価や資材の高騰が続き、厳しい出版事情が続いています。販売パートナーである書店さんの閉店はいまなお加速度的に進み、書店さんが存在しない自治体も増え続け、amazon をはじめとするネット書店さんへの依存度もより増してきています。書店という読者が内容を把握し、取捨選択する貴重な場所が減り続けていることは危惧しかありません。とはいえ、我々会員社が販売する書籍は、ジャケ買いならぬタイトル買いされるようなものではなく、内容を精査してお買い上げいただく本がほとんどです。紙や電子という媒体の種類はありまじょうが、読者にとって必要不可欠なモノであり、その存在がなくなるといことは考えられません。望まれる内容をどのような形であれいかにして読者に届けるか、いかにしてその内容を読者に知らしめるのか、そのさじ加減を追求し続けることになりそうです。

■ テーマ 3「自然科学書協会の今後について」

— 今後取り組みたいこと、期待していることは何でしょうか？

著作・出版権委員会においてご尽力いただいている権利問題はもちろんですが、厳しい出版事情である以上、会員社が競業ならぬ共業でできることを生み出せることができれば良いのではないのでしょうか。例えば営業や倉庫の問題など、核となる企画編集以外、手を携えられることは多々あるかと思います。一筋縄ではいかないのは重々承知していますが。



◆ 6. 第 74 期「自然科学書フェア 2025」視察報告 ◆

第 74 期の「自然科学書フェア 2025」は、京都府京都市にある大垣書店イオンモール KYOTO 店様にて、2025 年 5 月 15 日（木）～7 月 6 日（日）までの約 2 か月間にわたる開催となりました。

同店舗は、JR 京都駅から徒歩数分のところに位置するショッピングモール「イオンモール」の東側 Kaede 館 2 階にあり、約 1,000 坪の広さがあります。京都駅はいうまでもなく、京都府内だけでなく、隣の大阪府や滋賀県からも多数の通勤・通学者が訪れ、また観光客も多数来店されているとのこと。同店舗でのフェアの開催は、2015 年に引き続き 2 回目となります。

フェア期間の中日に近い 6 月 10 日（火）、池田理事長、梅澤副理事長、吉野販売・出展委員長に、私・國分を加えた 4 名で視察訪問し、今回フェアを担当していただいた荻野様、店長の清水様、前店長（現 商品部部長）の伊藤様と面会しました。



（左より）伊藤前店長、清水店長、荻野様、池田理事長、吉野委員長、梅澤副理事長、國分幹事

フェア会場は、右側入口の正面かつレジ脇に位置するイベントスペースをお借りし、棚 15 本とフェア台 7 か所を使用して、46 社 1,666 点 3,529 冊の本を展開しました。なお、会場スペースが広いため、今回は無料出品点数を 40 点に増やし、各社に出品点数・冊数の増加にご協力いただきました。

売上げは、6 月 8 日時点での元棚も含めた数字で 375 冊、1,049,813 円とのことで、10 年前の同店舗でのフェアやここ数年のフェアに比べても非常によい成績を上げていただいております。また元棚で動きの良い書籍・分野はフェア会場でも動きが良いとのことでした。

来客層としては、担当者の予想以上に若い方——お子様連れのご夫婦や（モール前にある）予備校の学生など——が多く、フェア会場自体が専門書の棚とは対になる位置にあることもあって、新たな客層も呼び込めているようです。

今回のフェアでは、店舗様からの要望もあり、従来から変更した点や新たな試みがあります。

◎（フェアテーマとは別に）集客のためのキャッチコピーがほしいという要望をいただき、店

- 舗様と販売・出展委員との相談のもと、「好奇心は世界を変える!」「“知りたい”にチャレンジ」の二つを設定しました。ポスターやしおり、新聞広告、店舗のショウウィンドウ（後述）やデジタルサイネージ（後述）などに利用し、フェアへの訴求力を高めるように試みました。
- ◎新聞広告は、フェア開始直後の 5 月 18 日（日）に、京都新聞の読書面の下に 3 段で掲載しました。従来の書籍連合広告ではなく、（去年のタウン紙と同じように）3 段を使ってフェアそのものの告知をする形としました。
- ◎従来「一押し」として各社から出品していただいたオススメ書籍について、選書基準が各社バラバラなことや、過去データから数的にあまり貢献がみられないことなどから、今年は「わが社の 2024 年売上ベスト 1」として出品を募り、会場に特別コーナーを設けて 1 か所に集めるとともに、ショウウィンドウにも全点を（ランダムに）展示して、お客さまにアピールするようにしました（出品冊数を 1 冊ずつ増やしていただき、ありがとうございました＞各社の担当者様）。一覧リストも作成して、会場で配布中です。
- ◎上述のように、今回は店舗の外側（モールの通路側）にある大型ショウウィンドウを利用して、フェアを告知する大型パネルを設置し、パネルの両脇に「わが社の 2024 年売上ベスト 1」の書籍を全点展示しました（写真参照）。モール外の 1 階の通行人の目にも留まるもので、ウィンドウに展示されている書籍を求められる方も多く、早い段階で店頭在庫分が売れてしまい補充した書籍もあるとのことでした。



ショウウィンドウ（左：全景を取めるためパノラマ型に画像編集したもの、右：実際は平面です）

- ◎店舗様のご厚意で、5 月下旬からは会場にデジタルサイネージ（大型モニター）を設置し、「わが社の 2024 年売上ベスト 1」全書籍と、8 つの小テーマの出品書籍からテーマごとに各社 1 点ずつをピックアップして、1 枚の画像に 6～8 点並べ、それをスライドショー的に映像として流していただいております。モニターが入口すぐの場所にあるため、立ち止まってご覧になれる方も非常に多く、集客に一役買っているとのことでした。デジタルサイネージの設置は今後のフェアでも検討課題かと思います。
- ◎フェアへの集客をはかるイベントとして、地人書館様による著者ミニ講演会を会場脇のスペースで 6 月 8 日（日）と 6 月 15 日（日）に開催しました。6 月 8 日はテーマ「プラネタリウム 100 年! 『天文手帳』 50 年! 今年の☆推し空☆話しま SHOW!」、6 月 15 日はテーマ「あなたの知らない『法獣医学』の世界」でした。6 月 8 日の講演会は盛況だったそうで、関連書籍の売上げも上がったとのことでした（6 月 15 日は本稿執筆時点で未開催）。また、同じくフェア関連行事として、店舗様のお声がけで、地元京都の科学普及支援団体「てんもんぶ」

による移動科学館（移動プラネタリウムやサイエンスショー、科学工作など。子どもゆめ基金助成活動）が 6 月 7 日（土）にイオンモール内イベントスペースにて開催されました。こちらプラネタリウム整理券が開始 5 分でなくなるなど大盛況とのことで、集客につながっているとのことでした（好評だったので、秋にも開催を検討中とのこと）。

なお、担当者の荻野様には従前にも増してご尽力いただいております、荻野様手作りのカラー（ラミネート）しおりを購入者に配布していただいたり、また「わが社の 2024 年売上ベスト 1」書籍については、ショウウィンドウでは各書籍の簡単な内容紹介パネルを作成・設置、特別コーナーでは書籍ごとにポップを付けていただくなど、本来、販売・出展委員がすべき作業も行っていた、感謝に堪えません。

荻野様からは、「残りの 1 か月弱、より売上げを上げるべく努力いたします」とのお言葉をいただきました。

なお視察終了後は、大垣書店の大垣社長をお迎えしてささやかな懇親会を開催し、店舗での棚のあり方などから出版界の今後まで、幅広く意見・情報交換をさせていただきました。

（販売・出展委員会 幹事 國分利幸：裳華房）



会場風景・視察の様子など



地人書館によるイベント
(大垣書店 Web ページより)



「てんもんぶ」によるイベント
(大垣書店 Web ページより)



荻野様手作りのしおり

◆ 7. 出版クラブビル 3 階ライブラリー「自然科学書協会展」のご案内 ◆

「未来に残したい本を収蔵する」ことを目的とし、2018 年秋にオープンした出版クラブビル 3 階ライブラリー（約 8,000 冊収蔵）では、現在に至るまで約 30 回に及ぶ企画展を日本出版クラブが開催しており、各方面から注目されています。

この度、日本出版クラブから当協会の会員各社の出版物の展示のご提案があり、下記の開催概要にて 35 社 132 点の応募出版物の展示を実施しています。

ぜひ日本出版クラブへお出かけいただき、展示会をご覧いただきたく存じます。

－ 開催概要 －

テ ー マ：自然科学書協会展 － 未来への架け橋 知識の泉

期 日：2025 年 6 月 27 日（金）～7 月 18 日（金）

9 月 1 日（月）～19 日（金）の 2 回開催
<10:00～18:00、土・日は休館>

会 場：出版クラブビル 3 階ライブラリー

<東京都千代田区神田神保町 1-32>

神保町駅（東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄新宿線・三田線）A5 出口より徒歩 2 分

展示内容：理学・工学・農学・医学・家政学の 5 つのカテゴリー別に展示

（広報委員長 牛来 真也：コロナ社）



◆ 8. 事務局だより ◆

●理事会

<74 期>

- ・ 4 月 17 日 (木) / 文化産業信用組合
- ・ 5 月 15 日 (木) / 文化産業信用組合

<75 期>

- ・ 6 月 20 日 (金) / 文化産業信用組合
- ・ 7 月 16 日 (水) / 日本出版クラブホール・会議室

●委員会

<74 期>

- ・ 4 月 10 日 (木) 広報委員会 / ハイブリッド方式 (コロナ社会議室・Zoom)
- ・ 4 月 11 日 (金) 著作・出版権委員会 / 文化産業信用組合

<75 期>

- ・ 6 月 17 日 (火) 選挙管理委員会 / 文化産業信用組合
- ・ 6 月 17 日 (火) 役員候補者選考委員会 / 文化産業信用組合

●監事会

- ・ 6 月 26 日 (木) / 文化産業信用組合

●第 75 期定時総会

- ・ 7 月 16 日 (水) / 日本出版クラブホール・会議室

●届出事項変更届

<当協会に対する代表者の変更>

株式会社 日刊工業新聞社 旧代表者：奥村 功 新代表者：宇田川 勝隆

<代表者の変更>

日本工業出版株式会社 旧代表者：小林 大作 新代表者：小林 康史

<販売・出展委員変更> 旧委員：坂本 亮 新委員：なし

<広報委員変更> 旧委員：門間 順子 新委員：なし

●退会

株式会社 同文書院 (2025 年 5 月 31 日付にて退会されました)

■ 5 月 7 日(水)「第 64 回全出版人大会」(一般財団法人日本出版クラブ主催・当協会協賛)が、ホテルニューオータニ鶴の間にて開催されました。

◆ 9. 編集後記 ◆

第 74 期における最後の会報はいかがでしたでしょうか? 「自然科学の時間」、「会員社訪問社長インタビュー」、「自然科学書フェア 2025 視察報告」など、そして第 75 期の内容まで含まれた大変充実した構成と今回はなりました。

第 74 期も多くの活動が行われたことを「第 74 期委員会事業報告」を読んで思い出しました。委員会活動は時に大変に思うこともありましたが、こうして 1 年間を振り返ってみると、多くの人と出会い楽しかったことのほうが多かったと実感しています。

最後に、出版クラブビル 3 階ライブラリーで行われています「自然科学書協会展 — 未来への架け橋 知識の泉」にまだ行かれていない方は、お近くにお越しの際は、ぜひ立ち寄っていただければ幸いです。

(広報委員会 新井 明良: コロナ社)

● 第 73・74 期広報委員会 ●

委員長: 牛来真也 (コロナ社)

副委員長: 曾根良介 (化学同人)

委員: 原 純子 (オーム社)

山田貴史 (化学同人)

門間順子 (共立出版)

加藤義之 (建帛社)

高田由紀子 (恒星社厚生閣)

新井明良 (コロナ社)

逸見健介 (南江堂)

飯岡千恵子 (丸善出版)

